

地域鉄道フォーラム2019

鉄道と映画



鉄道と映画の関わりを探ります

2019年6月8日(土)
13時~15時 12時30分開場

東武博物館ホール 東京都墨田区東向島4-28-16
(東武スカイツリーライン東向島駅下車0分)
参加費:無料 ただし、東武博物館への入場料大人200円が必要です
募集人員:120名 当日先着順 募集人員を超えた場合は立席

来賓あいさつ



国土交通省鉄道局
鉄道事業課長 石原 大氏

基 調 講 演

鉄道と映画



元(財)運輸政策研究機構会長
羽生次郎氏

出雲発の
鉄道映画に込めたメッセージ



映画監督・脚本家
錦織良成氏

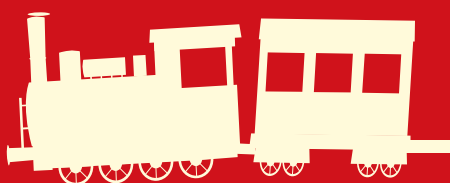
トークセッション「鉄道と映画のこれから」
—羽生次郎氏と錦織良成氏を交えて—



詩人・社会学者
水無田気流氏



社会学者・社会哲学者
田中 人氏



プロフィール(敬称略)

来賓あいさつ

石原 大 Ishihara Dai



国土交通省鉄道局鉄道事業課長
1992年運輸省入省。
海上交通局、運輸政策局、自動車交通局、鉄道局、道路局、外務省在オーストラリア大使館、航空局、観光庁等を経て、大臣官房人事課企画官、観光庁観光産業課長、航空局航空戦略課長、国土交通大臣秘書官を歴任。
2017年8月より現職。

基調講演 / トークセッション

羽生次郎 Hanyu Jiro



1969年運輸省入省、運輸政策局長、国土交通審議官等を歴任し、航空協定、海洋汚染の防止、環境に優しい自動車等の課題について諸外国との交渉や国際的な連携を主導。その後、2002年財団法人運輸政策研究機構国際問題研究所長、2007年から2011年まで財団法人運輸政策研究機構会長、2007年より2016年まで財団法人笹川平和財団の会長を務める。
趣味は映画。鉄道と映画の関係を『映画の中の鉄道』(JRTR、2000)、『鉄道と映画』(みんなてつ2003~2012)等の著書の中で解き明かす。

錦織良成 Nishikori Yoshinari



映画監督・脚本家
1962年島根県生まれ。1996年劇場映画『BUGS』で映画監督デビュー。『守ってあげたい!』、『白い船』、『ミラクルバナナ』、『うん、何?』(2009年ホノルル国際映画祭優秀映画栄誉賞受賞)、『RAILWAYS-49歳で電車の運転士になった男の物語-』(KINOTAYO映画祭2010最高賞 Soleil d'Or KINOTAYO受賞)、『渾身』、『たたら侍』(モントリオール世界映画祭ワールド・コンペティション部門最優秀芸術賞受賞)、『僕に、会いたかった』等の作品の脚本、映画監督を務める。しまね映画塾塾長。

トークセッション

水無田気流 Minashita Kiriu



詩人・社会学者、國學院大學経済学部教授
詩人として2006年に詩集『音速平和』で中原中也賞、詩集『Z堺』で晩翠賞。社会学者として文化社会学、家族社会学、ジェンダー論のほか家族、恋愛、地域社会について様々なメディアを通じて発言を行っている。著書に『無頼化した女たち』(亜紀書房)、『シングルマザーの貧困』(光文社新書)、『居場所のない男、時間がない女』(日本経済新聞出版)ほか。国土交通省鉄道局後援「鉄道写真詩コンテスト」の審査委員。

田中 人 Tanaka Masato



社会学者・社会哲学者、愛知学泉大学講師
早稲田大学助手を経て亜細亜大学、立教大学、早稲田大学、慶應義塾大学等において教鞭をとり、地域コミュニティの再生やまちづくり、新しい地域創造の方法論について独自の観点から論評を行なっている。2015年より愛知学泉大学現代マネジメント学部講師。著書に『甦るコミュニティ』(共著、文真堂)、『ボランティア論』(共著、ミネルヴァ書房)など。(一社)交通環境整備ネットワーク理事。

